

道路14 国道11号の一次改築(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川53	本田忠雄編「新 香西史」(香西町公民館、1965年)、191頁	<p>国道二十三号線(国道十一号線)の開通</p> <p>国道二十三号線(昭和二十八年より国道十一号線と改称)は昭和二十七年七月十二日に開通して我が香西町発展の歴史的幕が開いた。(中略)正に町民多年の夢が実現した歓喜の記念日であった。海の門戸として香西港を持つ我が町が更に国道に接して、東讃西讃とも自由に連絡することになったのはいはば陸の港を持ったようなもので、両翼を備えたことは我が香西に耀やく未来を約束してくれたのであった。</p> <p>この歴史的大事業も無造作に国がつけてくれたものではなく、矢張り不断の努力の結晶であって、地元香西町の苦労と多額の経費を払って獲得したものであることを銘記しなければならぬ。</p>
香川94	一ノ谷郷土史研究会編「かがわ一ノ谷の歴史」(一ノ谷郷土史研究会、2001年)、401-402頁	<p>国道11号線開通</p> <p>(中略)昭和四十年(一九六五)四月、徳島市より香川県内を経て松山市に至る二三キロメートルの国道11号線が開通した。(中略)</p> <p>一ノ谷地域においては、新国道沿道周辺に、次第に各種の大小の店舗や営業所ができ、各科医院の開業があり、工場等も進出してきた。11号線を軸に地域の変貌は著しいものがある。特に県道黒淵本大線との分岐点付近は市街化が顕著である。それだけ、生活が便利になったが、車による大気汚染や騒音、交通事故の危険にさらされるようになった。近年は過度の車の通行量で長い交通渋滞が生じやすくなってきている。</p>
香川97	豊浜町誌編集委員会編「豊浜町誌」(豊浜町、1974年)、772-773頁	<p>国道十一号線の改修</p> <p>豊浜町を經由する旧国道は輸送機関の急速な発展に伴って改修の必要に迫られ、昭和二十八年(一九五三)臨港線新設に併せて着工され、同三十四年に完工をみている。新国道十一号線は、箕浦地区では海岸の埋立てで拡張を行い、堀切・関谷から旧豊浜町内では市街地を通る旧道を避けて海岸沿いに新道を建設する、などによって一挙に幅を一五メートルに拡げ、一級国道としての面目を新たにした。</p> <p>(中略)</p> <p>その後、国道・県道の舗装工事が進むにつれ、(中略)町内の道路の改良・新設・舗装工事が進められ、豊浜町内に縦横に通じる大小の町道は、現在ほとんどがコンクリートまたはアスファルト舗装が施されて、産業経済の発展と交通に多大の便益をもたらしている。これは他町の現況と比較する時、特に注目される長所である。</p>